

## ▶「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011

### 「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011

#### 人づくりから広がるまちづくり

社団法人姫路青年会議所では、2001年に「循環のまち姫路」をテーマに、2006年には「都市に田舎あり」をテーマにして、運動指針としてのグランドデザインを策定しました。グランドデザインを策定することで単年度制である社団法人姫路青年会議所活動が年度ごとに方向性が大きく変わらないようにし、また協働していただく様々な団体や市民の皆様からは、継続した活動により信頼を得て参りました。

この度、2011年度を迎えるにあたり、2度にわたり策定してきたグランドデザインの運動指針を受け継ぎ、時代の変化に対応すべく、より身近で具体的な活動の方向性を『「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト』として策定し、社団法人姫路青年会議所が様々な団体（兵庫県・姫路市・NPO・市民団体・学校・企業など）や市民の皆様と共に取り組むべきまちづくりの活動指針として定めます。

#### 次世代に伝えていくもの

戦後日本では、高度経済成長や急速に進む都市化により利便性が向上し、生活環境が変化すると共に、核家族化が進んできました。その結果、長い間維持されてきた、生活するためお互いを思いやりながら助け合ってきた姿が変化してきています。永い時間をかけて培ってきた日本独自の生活様式が希薄になり、個人の権利を主張し、個人の利益を中心に考える価値観が広がってきました。その結果、今まででは考えられなかった利己的な考え方をする人が増えつつあります。また、核家族の比率が高くなると共に、子供たちは身近で触れあえる人の数が少なくなり、人間関係が希薄になってきているのではないのでしょうか。

我々の先祖が永い年月をかけて築いてきた、自然と調和し、人を思いやる心を大切にした「日本のかたち」。その「日本のかたち」を伝え続け、豊かな人生を送るための生き方を伝えていくことが、我々が日本人として次の世代に伝え

## 「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011◀

ていくべき「こころのあり方」ではないでしょうか。

### 「都市」の利便性と「田舎」のやすらぎ

約300年間続いた江戸時代という安定した時間。その中で人々は自然と共に生きながら、生活の細部にまでこだわり、密度の濃い生活をしてきました。今の日本をここまで成長させた原動力は、永い時間をかけて培ってきた生きるための哲学、物事にこだわり抜く姿勢にあったのではないのでしょうか。

しかし、急速に進む都市化の中で、我々は先人が造り上げてきた大切な価値よりも、個人を主体とした利便性の高い生活を重視してきました。次の世代につないでいくもの、それは姫路城を中心とした観光経済が成立していて、現在の豊かな工業を基盤とした多くの仕事があり、生活する上で利便性の高い姫路を更に成長させつつ、昔ながらの自然や人と人とのふれあいが残るまちの姿ではないのでしょうか。昔の人々の知恵を尊重し、まちの成り立ちを理解して、人と人とのつながりや思いやりを大切にする。そんな生活しやすいまちを市民と共に創り出し、責任を持って次世代に伝えていくことが、我々に課せられたまちづくりの使命であると考えます。

### 次の世代に伝える事

#### 知ること

- ・ 姫路のまちの成り立ち
- ・ 姫路のまちに生きた人の物語
- ・ 姫路のまちの現在

#### 伝えること

- ・ 姫路を育んできた人々の想い
- ・ 「田舎」の大切さ
- ・ 人や自然とのふれあいを通した思いやり
- ・ 郷土を愛する心

## ▶「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011

### 達成すべきかたち

姫路にある利便性の高い「都市」と、人々のふれあいが残る「田舎」と両立しながら、生活する人々が心豊かな暮らしができる。そして、姫路に世界中から日本の姿を感じるために人々が訪れる。そんなまちにするために、以下の5つの観点からまちづくり活動に取り組んでいきます。

#### ①姫路のかたち

「姫路のかたち」それは、昔から都会でもなく、田舎でもない姫路のおかれた環境により育まれてきました。江戸時代には西からの防衛上の拠点として幕府直轄の運営がされたため、外来者に冷たく、独立した経済圏を作って生活してきた姿が、時代を経た今も色濃く残っています。そんな姫路の歴史を知り、未来につながる新たな「姫路のかたち」を提案していきます。

#### ②姫路の風景

永い時間に磨かれた素晴らしい技術の息づくまち。そして、多くの産業を抱える「都市」でありながら、手を伸ばせば「田舎」という言葉でイメージされる豊かな自然や、人と人とのつながりが残った風景がある。そんな「姫路の風景」を市民と共に実体験を通して再確認していきます。

#### ③共に学ぶ

昔は普通だった3世代同居が、核家族化の進行により崩れようとしています。お年寄りが敬われ、子供たちが生き生きと成長するために、世代間の交流を促進し、個人から集団へ、人と人とのつながりを大切にしたいまちの在り方を提案します。そして、子供たちが学校の先生や両親を尊敬しながら、その想いを共に感じ得ることができる事業を展開していきます。

#### ④世界の中の姫路

近年身近な範囲で行動する人が多くなり、海外とのつながりを持ち、様々な価値観を受け入れていこうとする人が少なくなってきました。世界の視点から姫路を見ることができ、人を育てるために、しっかりと日本独自の価値観を知り、自分たちの歴史を知った人たちによる国際交流を展開していきます。

## 「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011◀

### ⑤これからの姫路

日本では、世界で初めて人口の自然減少が始まり、その影響で底の無い不況に突入しています。その中で、我々はいかに生きるべきなのか、子供たちに何を伝えていくべきなのかを改めて考え、未来につながる夢ふくらむまちづくりを提言していきます。

## 「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト 行動プラン

### 姫路のかたち

#### 姫路気質を知ろう

姫路は、畿内への入り口のまちとして、飛鳥時代以前から都落ちした人や都に向かう知識人の集う場所で、優れた学問や技術を持ちながらも、辺境として認識された土地でした。江戸時代には西国からの防衛の拠点であり、地域内での結束が固く、外部の人には警戒心が強くなる環境にありました。そんな歴史を持つ姫路を、地理的な観点から読み解き姫路気質を浮き彫りにして、姫路の地域性を踏まえたまちづくりを提言します。

#### 姫路の歴史を知ろう

大きな時代のうねりの中で生き延びていくために、命がけで姫路を守り決断してきた人々の姿を、その時代背景を踏まえて読み解くことで、その当時の人々の生き様に共感できるような事業を展開して、姫路に生きた人々の歴史を次世代に伝承していくことで、郷土愛を育みます。

#### まつり文化の継承

まちの伝統を表した播州秋まつり。屋台文化保存連絡協議会と共に各地のまつりの成り立ちや、工芸品としての装飾の数々を保存し、姫路の技術として語り継いでいきます。

### 姫路の風景

#### 姫路の自然を知ろう

山・川・海・農村と、姫路には日本の原風景と言える自然が豊富にあります。自然環境や生態系に実際に触れながら、自然を守ることの大切さを体感できる事業を行い、自然を守る活動を広げていきます。

## ▶「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011

### 姫路のもののづくりを知ろう

優れた伝統工芸や、世界に商品を提供している企業での工場見学や、実際に制作体験をすることで、もののづくりの現場に触れ、姫路を支える工業生産の大切さを学び、優れた工業技術を発信していきます。

### 姫路の食を知ろう

農業や漁業や畜産など、実際に生産現場での実体験を通して、自分たちの食べている食べ物の生産過程や生産者の想い、収穫の喜びを感じ、食べ物の大切さを体感できる事業を行うことで、食べ物を大切にすることを育みます。

### 姫路のスポーツを知ろう

姫路で盛んに行われている、野球やサッカーを中心とした様々なスポーツを取り巻く環境を再確認します。そして、スポーツを核とした人々の集う事業を実施し、スポーツと共にあるまちづくりの形を発信していきます。

## 共に学ぶ

### ふれあいお年寄りプロジェクト

今では写真でしか知ることのできない、昔の姫路の姿や人々の生きた時代を、お年寄りから子供たちへ伝え、姫路の歴史をつないでいく事業を行うことで、世代間の交流を促進します。

### 親学プロジェクト

親として、子供たちへの教育の在り方をどのように考え、自分たちがどのように教育に関わっていくのかを考える場を設け、親同士が教師と一体となって学校や家庭や地域での教育に取り組める環境づくりを進めます。

## 世界の中の姫路

### 各国JC相互訪問

外国の人と交流するには、まず自国のことを説明できなければ、個人を理解してもらえません。自国の歴史を知り、世界で認知される人を創り、海外との接点を増やすことで、多様な価値観を理解し、受け入れられる人を創り、JCI (Junior Chamber International=国際青年会議所) という枠組みの中で、姫路を伝えていく事業を行います。

## 「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011◀

### 国際交流

JCIのネットワークを活かして、諸外国のJCI関係者の子弟と交流を行います。多様な価値観を知る契機とすると共に、国際感覚を養う場とします。そして、世界という視点で物事を図れる人を育成します。

### これからの姫路

#### これからの姫路

人口が減少することで、未来の姫路はどのように変化するかを、具体的なデータに基づいて想定します。また、経済的にどのような影響が出るのかについても想定し、その結果を市民に向けて発信します。

#### 子供を守るまち

核家族化の進行により、家族のみで子供を育てる家が増えています。子供を守り、まちぐるみで育てる環境を創ることで、子供を育てやすい姫路を創造します。

#### 市民祭典の実施

主催者も参加者も共に楽しみながら参画する、姫路の特色を生かした市民祭典を実施します。

### ●検証プログラム

ここで描いた「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクトを達成するために、目標としたいまちを意識しながら、現状に対して取り組まなければいけない課題を見つけ、事業構築します。課題を達成するための事業は様々な内容のものとなるはずですが、委員会の方針を踏まえて事業構築することを通して行動し、その結果を検証し次年度に申し送ります。

検 証 事業実施 課題の発見 現状の認識 目標のまち

### 姫路から広がるまちづくり

#### 我々の目指すまちづくりとは

(社)姫路青年会議所が目指す、長期的な視点に立ち広い視野を持ったまちづくり活動とは、どのような活動なのでしょう。それは、市民が心から安全に満足して生活でき、子供たちが安心して勉強したり遊んだりできるようなまち。そし

## ▶「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011

て、地域全体が人と人のつながりを大切にしまちであり、困難なことが起きると市民一体で立ち向かえるまちと考えます。

市民が心から満足して生活するには、市民が率先してまちづくりに関わっていける環境が必要になります。そして、子供たちが安心して遊べるまちにするためには、安全であることはもちろん、学校ではしっかりと勉強に取り組める環境があり、学校を出ると、勉強のことを忘れて友達同士で遊べるような、質の高い学校教育が必要であると考えます。また、まちぐるみで子供たちを見守り育てようという人々のつながりがなければ、達成されることはありません。

ところが今の日本では、もっと豊かにもっと便利にならなければならない。他の地域と比較して、より優位に立たなければならないという考え方が蔓延しています。そのようにして、利便性の高さを競ってきた結果、昔と比べて大幅に便利になったにも関わらず、その便利さに感謝することができず、更なる利便性を求めて右往左往しているのではないのでしょうか。そして、他の地域と比較して、姫路の劣っている所ばかり目に付いて、自分たちが長い年月をかけて培ってきた先人の英知や想いを知ることなく、物質的な満足に終始しているように感じられます。その結果、自分たちの住む姫路に愛着を持つことができずに、他の地域との比較をして自信を無くしているのではないのでしょうか。

日本全国でこのような現象が起きているために、物質的には世界で1・2を争うぐらい豊かになり、経済的にも生活が成り立たない状況はほとんど見られないほど安定した社会構造を築いているにも関わらず、幸せを感じられないのではないのでしょうか。

そんな風潮の時であるからこそ、自分たちが育ってきたまちの歴史を知り、そこで様々な困難を乗り越えながら生きてきた人々の想いに共感し、そして次の世代にまちの歴史と誇りを語り伝え、姫路というまちの形を伝えていくことが必要であると考えます。

そのためには、(社)姫路青年会議所だけではなく、様々な団体の皆様と協働し、市民を巻き込んだ活動を行うことにより、他のどこでもない、自分たちが暮らし、誇りを持って次

## 「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011◀

の世代に伝えていきたい姫路が生まれるのだと考えます。

### 世界とのつながり

そして、(社)姫路青年会議所が持つもう一つのネットワークが、世界各国につながる活動です。

今、日本が全体的に内向きの活動に向かっている状況があります。しかし、大手企業は世界を視野に入れた人材を広く求め、国内に人がいないために日本人を育てようとはせず海外からの留学生を採用する傾向が強くなっています。社会情勢から見ても、今後人口が減少した時に経済的な環境を維持するためには、世界とのつながりやグローバルな価値観が必須となります。将来を見据えて次世代につなぐまちづくりを行なうためには、姫路から世界に広がるネットワークをつくり出すことが求められているのではないのでしょうか。

真の国際人を育てるために必要なこと。それは、しっかりと日本の価値観を理解し、日本を代表した立場で発言ができる人を育てることから始まります。自分自身にしっかりとした価値観があるからこそ、様々な価値観を持つ人達と議論し、解り合うことができるからです。その先にこそお互いの立場を理解し思いやることができる、真の国際化があると考えます。

姫路という、一地方から物事を考えるのではなく、世界の中の姫路という視野で物事を考えられる。そんな人を育て増やす活動をすることで、次の世代に向けて更に発展していく姫路のまちを託せると考えます。

### 大きな目標を持つということ

(社)姫路青年会議所では、2005年に(社)日本青年会議所全国会員大会を「姫路JCをさらに元気のある団体に、そして青年会議所の存在意義を改めて確認し、そのまちづくりへの取り組みを地域に、行政に、そして全国に問うていけるものに育てていきたい」という理念のもと実施いたしました。その結果、会員同士はもちろん、従来よりも濃密な行政や様々な団体の皆様との協働を実現でき、姫路のまちの発展に向けた様々な課題が見つかり、また全国の青年会議所会員へ姫路のまちづくり運動を発信することができました。



## ▶「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011

しかし、その後大きな目標を達成してしまったために次なる目標を定めることができず、地域内での活動に終始する雰囲気が出てしまいました。そして、大きな目標を立てることが少なくなったために夢ふくらむようなまちづくりを描く力が弱くなり、青年会議所活動に刺激されることが少なくなって、会員同士のつながりも楽な方へと流されてしまったのではないのでしょうか。

人は大きな目標を持つからこそ、目標に到達する方法を真剣に考え成長していく。

全国会員大会で我々の先輩が成し遂げたこと。それは、全国会員大会の開催よりも、招致活動を通して得ることの方が多かったように感じます。日本中のまちを訪問し、姫路のことを知らない人に姫路の良さを伝える。その過程で、改めて姫路の良さや足りない所に気づき、全国会員大会の開催に向けて、よりよい姫路に向けたまちづくり活動を真剣に行いました。大きな目標を達成するために様々な課題を乗り越えていくことでたくましいJAYCEEが育ち、結果として行政や他団体に活動方針が広く認知される契機となりました。そのように姫路というまちに真剣に向き合っていた成果が、全国会員大会の開催であったと考えます。

## 更なる高みを目指して

今、改めて大きな目標を立て、そしてその目標に向かって試行錯誤しながら進んでいく。その一つ一つの活動が、仕事という視点だけで物事を考えがちな我々青年経済人を、まちの在り方や人と人のつながりを体感することでより大きな人間に育てることにつながります。そして高い意識を持った人がまちづくりに関わり続けることで、市民が住みやすいまち、住んでいて楽しいまち、そして魅力に溢れたまちに変えていく原動力になると考えます。

更に、我々のまちには、世界文化遺産の姫路城があり、海外から訪れる観光客の国内訪問希望先ベスト3に必ず入っています。それだけ魅力ある姫路城を訪れた時に、姫路城を取り巻く文化や歴史、食も含めて、姫路市民の誰もが観光客にまちの魅力を伝えられるような事業を実施し続けること。その事業を通して、市民の誰もが自分たちの郷土を愛してい

## 「夢ふくらむ姫路」創造プロジェクト2011◀

るという、まちの理想の姿が生まれると考えます。

そして、「夢ふくらむ姫路」を創造するには、今までよりも更に広い視点で見なければ達成できない目標を目指し活動していく必要があると考えます。大きな目標の達成を目指すことで、我々会員もかつて先輩たちが全国会員大会を実施したことで大きく成長し、より広い視野で姫路のまちを見ることができたように、人としてもまちに住む市民としても、更なる高みにたどり着くための目標になると確信しています。

更なる高みへと向かって取り組む姫路のまちづくり活動の中で、志を高く、強い信念を持って、最後までやり遂げる責任感を持った、たくましいJAYCEEを育て、JCI世界会議やJCI-ASPAC(Asia Pacific Area Conference=アジア太平洋エリア会議)などの大会の招致をできるような(社)姫路青年会議所となることを目指して活動していきます。そのような活動を通して姫路に再度課題を見出し、行政や市民団体の皆様と共に「夢ふくらむ姫路」を創りあげるために、(社)姫路青年会議所が中心となって姫路のまちづくり活動に取り組んでいきます。

現在の世界の中での姫路のポジションを認識し、世界に通用する姫路城に負けない姫路のまちを創り上げるべく、事業運営を通じて姫路の魅力を発信し、姫路を愛する人を育てていきます。